

令和7年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第6号（9月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年8月28日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○9月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			8月の発生量 (平年比)	8月からの 増減	9月の発生量 (平年比)	
(温かんきつみかん)	①	そうか病	やや多	↓	やや多	平年の発生量の推移(↓)
(タかんきつカン)	①	かいよう病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	①	チャノキイロアザミウマ	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	②	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
カンシヨ	基腐病・乾腐病	沖縄本島中南部の巡回調査で多くのほ場で症状を確認し一部で多発生のほ場もあった。ほ場での発生状況を確認し早めの収穫を行う。収穫後は残渣を速やかに持ち出して処分する。または、耕耘を数回、丁寧に行い、収穫残渣の分解促進と野良イモの発生を防ぎ、病原菌の増殖を抑制する。
さとうきび	タイワンツチイナゴ	久米島の一部で発生が多くなっている（防除員報告）。年1回の発生で幼虫は4～6月に成虫は6～8月にかけて出現する。成虫が多い時期なので防除は活動の鈍い早朝に行う。また、薬剤は浸透移行性や残効性の高い剤を用いる。
(温かんきつみかん)	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良、肥大阻害を引き起こすことで、外観が損なわれるため商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。

(かんきつ)	サビダニ類	一部ほ場でサビダニ類による被害果が見られた。肉眼では発見しにくく果実に被害が見られてからの防除では手遅れになるため、予防に重点を置いて防除する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でナカジロフサヤガの発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り不要な新梢を除去するとともに早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。 カイガラムシ類は一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため早期発見・防除に努める。

令和7年度 宮古群島 病害虫発生予報 第6号（9月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年8月28日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○9月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		8月の発生量 （平年比）	8月からの 増減	9月の発生量 （平年比）	
マン ゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	③ ハダニ類	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マン ゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	複数の施設でコシロモンドクガ、ナカジロフサヤガの発生が見られた。新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。また、ハブラシ等で成幼虫こすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。

令和7年度 八重山群島 病害虫発生予報 第6号（9月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年8月28日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○9月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			8月の発生量 (平年比)	8月からの 増減	9月の発生量 (平年比)	
(2 水 期 稲)	①	スクミリンゴガイ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘) -----
マン ゴー	①	チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗) -----
	②	マンゴーハフクレタマバエ	多	↗	多	平年の発生量の推移 (↗) -----
	③	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→) -----
オ ク ラ	①	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗) -----
	②	フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗) -----
	③	チョウ目幼虫	並	→	並	平年の発生量の推移 (→) -----

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。
●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値
※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。
※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予察の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病虫害（八重山群島）

作物	病虫害名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でナカジロフサヤガの発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生が見られた。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。
オクラ	カタツムリ類	切り戻し後に萌芽した側枝は、草丈が低く葉が柔らかいため加害を受けやすいので、発見次第捕殺に努める。